

## 令和2年度 公益財団法人大分県スポーツ協会第2回理事会

日時：令和2年9月3日（木）14時30分～

場所：大分県庁舎本館2階「正庁ホール」

### 理 事

出席者 麻生 益直 工藤 利明 相馬 尊重 野見山裕治 加藤 寛章  
(23名) 阿部 方 安部 亮 井上 倫明 衛藤 賢 佐藤 彰倫  
土谷 忠昭 藤本 学 牧 和志 松本 悠輝 足立 達哉  
大場 俊二 後藤 修二 佐藤 好昭 竹井 信之 中村 和好  
牧野 新吾 真砂 昌史 渡邊 光廣

欠席者 三好 正昭 神志那静清 後藤 博美 末吉 新治 杉原 勉  
(6名) 友岡 正春

### 監 事

出席者 倉掛 賢裕 志賀 一哉 矢部 正秋  
(3名)

資格確認 渡邊総務部長が出席者理事23名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

#### 1. 開会のことば

渡邊総務部長が開会のことばを述べた。

#### 2. あいさつ

公益財団法人大分県スポーツ協会会長 麻生益直があいさつを行った。

皆さん、こんにちは。本日は、第2回理事会を開催いたしましたところ、皆様方には何かと御多用の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。特に、医療現場に携わる皆様には、新型コロナウイルス感染症への対応で大変な御苦労があるものと拝察いたします。皆様の御尽力に心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

また、本日は、私を含め日田・玖珠・由布地域から御参加の方がいらっしゃいますが、「令和2年7月豪雨」では甚大な被害が発生いたしました。お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、我々の生活に大きな影響を与えています。スポーツ

も例外ではなく、「鹿児島国体」は史上初の延期となりました。また、中高生の大きな目標である全中やインターハイ、甲子園大会といった全国大会は全て中止となりました。全国の舞台を夢見て努力を重ねてきた選手や指導者の気持ちを考えると残念でなりません。せめて、県での代替大会等が開催されたことは、意義があったものと感じているところです。一方、地域スポーツでは、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動においても感染の不安は拭えず、思うような活動ができず苦慮されているのではないかと思います。スポーツ活動を行うに当たっては、様々な制約がありますが、「ウィズコロナ」の視点に立ち、「新しい生活様式」の実践、「3密」の回避など感染防止対策を講じた上で、県民が安心してスポーツに親しめる環境を創出できるよう、関係機関と連携をとりながら取り組んでいく必要があると感じています。スポーツの力で県民に勇気と感動を届け、大分を元気にしていくためにも、これまで以上に皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

結びに、本日は、補正予算やロゴマークについて協議をいたします。時節柄、できるだけ短時間で終了したいと考えておりますが、皆様には、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

よろしくをお願いいたします。

議長選出 以下、進行の渡邊総務部長の説明

理事会規程第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっていますので麻生会長に議長をお願いいたします。

また、議事録署名につきましては、定款第37条に出席した会長・副会長及び監事は議事録に記名押印するとなっておりますので、その旨よろしくをお願いいたします。

以下、議長による進行。

### 3. 議事

議案1 令和2年度補正予算について

議案2 ロゴマークについて

議案3 公益財団法人大分県スポーツ協会表彰に係る特例措置について

#### 【議案1 令和2年度補正予算について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

令和2年度補正予算について説明いたします。レジュメは2ページからとなります。今回の補正予算につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、国民体育大会をはじめとする各種大会、講習会が中止になるなど、予算編成後の情勢に対応するために行うものでございます。本会の会計は、公益法人会計として、大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3事業の会計と、事務局運営に係る法人会計の4会計からなっています。

それぞれの会計ごとの資料は、3ページから6ページにかけて詳細に記載していますが、わかりやすくするために、2ページ右のA3概要版を使って説明させていただきます。恐れ入りますが、レジュメの方向を変えていただきまして御覧ください。補正前予算額・補正額・補正後予算額の角カッコは大科目、丸カッコは中科目、カッコがないのが小科目の金額となっています。また、表の両端の小さな数字は行数を示しています。

まず、一般正味財産増減の部の経常収益、いわゆる収入の部です。今回の経常収益の補正理由の多くは、新型コロナウイルス感染症に関するものであります。始めに5行目、受取加盟金ですが、補正前予算額885万5千円に対しまして、7万円増額、補正後予算額892万5千円でございます。これは、武術太極拳連盟の新規加盟により、分担金が増額されたものです。9行目、スポーツ少年団登録料ですが、補正前予算額810万円に対しまして、164万円減額、補正後予算額646万円でございます。確定数ではありませんが、現時点の見込みとして、登録指導者・団員併せて2800名の減数によるものです。次に11行目の受取補助金等ですが、補正前予算額2億6千7万8千円に対しまして、40万円減額、補正後予算額2億5千967万8千円でございます。これは、日独スポーツ少年団同時交流事業が中止になったためです。次に16行目の受取民間補助金ですが、補正前予算額275万6千円に対しまして、142万2千円減額、補正後予算額133万4千円でございます。これは、スポーツ少年団各種事業に対する、日本スポーツ協会からの負担金減額によるものです。次に25行目、日本スポーツ協会受託金ですが、補正前予算額46万円に対しまして、13万円減額、補正後予算額33万円でございます。これは、日本スポーツ協会公認指導者更新研修会が年2回開催の内、1コース中止になったためです。次に29行目、受取負担金ですが、補正前予算額243万3千円に対しまして、122万3千円減額、補正後予算額121万円でございます。これは、各種大会・研修会の中止・減数など実態に応じて減額補正するものです。次に41行目、受取寄付金ですが、補正前予算額80万円に対しまして、56万円減額、補正後予算額24万円でございます。この内、42行目の寄付金は、アサヒビール株式会社様より、「大分県子供たちの未来のアスリート育成プロジェクト」として、大分県限定ラベルの売り上げの一部をご寄付いただいたことにより増額、43行目、指定正味財産からの振替額は、国体中止に伴い、工藤秀明スポーツ奨励賞受賞式を取りやめることにより、減額するものです。次に46行目、スポーツ振興協力金ですが、補正前予算額600万円に対しまして、82万円減額、補正後予算額518万円でございます。こちらは、大分県ゴルフ場経営者協会様より、これまでも本会の貴重な財源として、ゴルフ場利用者から徴収していただいた協力金を、募金していただいておりますが、新型コロナウイルス感染症による影響により、8月から10月までの3ヶ月間限定であります。本会への、協力金割合、引き下げの申し出があり、減額補正するものです。次に49行目、雑収益ですが、補正前予算額154万円に対しまして、29万5千円減額、補正後予算額124万5千円でございます。これは、国体傷害保険手数料と県立総合体育館に設置していましたが、大分市へ移管されたことにより、9台の減数、併せて、他の設置場所も公共施設であることから、感染症対策に伴う施設臨時休業による販売手数料減によるものです。50行目、経常収益計につきましては、補正前予算額2億9千592万3千円に対しまして、642万円減額の補正

後予算額は2億8千950万3千円となります。

次に経常費用、いわゆる支出の部でございます。63行目、大分県スポーツ少年団事業ですが、補正前予算額830万7千円に対しまして、372万3千円減額の補正後予算額は458万4千円となります。これは経常収益と同じ理由により、減額補正となっています。71行目、日本スポーツ協会委託事業費ですが、補正前予算額80万7千円に対しまして、30万円減額の補正後予算額は50万7千円となります。こちらも経常収益と同じ理由により、減額補正となっています。75行目の上記3事業の事業管理費につきましては、補正前予算額2千234万円に対しまして、87万円減額、補正後予算額は2千147万円でございます。併せて、77行目、法人会計管理費ですが、補正前予算額694万円に対しまして、3万6千円減額、補正後予算額は690万4千円でございます。両科目の内、減額となる内訳ですが、会議費5万6千円、旅費交通費49万7千円、カラー複合機並びにパソコンネットセキュリティの、リース業者変更により、46万3千円、又、スポーツ少年団登録者数の減数による、日本スポーツ少年団本部への支払い負担金、120万円などが主な減額になります。逆に、増額となる内訳ですが、雑費21万6千円の増額補正です。これは、昨年10月に開催された、茨城国体カヌー競技会で使用したレーシング艇の、大分から、現地試合会場までの輸送費となります。本年6月に輸送業者からの連絡により、未払いであることが判明し、その後、輸送業者と協議した結果、本会事務局と輸送業者双方で、事務処理の誤りがある事が確認されました。本来なら、昨年度の国体参加費で精算すべきものでありますが、今年度の法人会計から、21万6千円を計上し、年度をまたいで、経理処理をしなければいけないことになりました。今後は、チェック体制の更なる強化を行い、このようなことがないように、細心の注意を払って、万全を期してまいります。このたびは、誠に申し訳ございませんでした。

次の増額の内訳ですが、ホームページリニューアル費・リモート化費用として、110万円の増額補正です。新型感染症の拡大を機に、テレワークや、オンラインでの会議・eラーニング研修など、様々な利活用が待望される中、今こそ、デジタル化・リモート化への環境整備を進めるべきであることから、計上させていただきました。78行目、経常費用計ですが、補正前予算額2億9千640万1千円に対しまして、552万9千円減額の補正後予算額は2億9千87万2千円となります。続いて84行目、当期経常増減額計ですが、補正前予算額マイナス47万8千円に対しまして、89万1千円減のマイナス136万9千円の補正後予算額となり、この額が赤字見込額となります。最終行、正味財産期末残高につきましては、補正前予算額3千613万4千990円に対しまして、29万1千円減額の補正後予算額3千584万3千990円となります。今回、赤字見込みが増えた要因は、経常収益の項では、スポーツ少年団登録料の減額、スポーツ振興協力金の減額、雑収益の自動販売機販売手数料の減額によるものです。経常費用の項では、昨年度国体でのカヌーレーシング艇の輸送費未払金、ホームページリニューアル費などデジタル化推進に係わる諸経費などが増額の主な要因です。今年度は、事業管理費などにおいて、赤字解消に向け、経費削減に努めていますが、デジタル化・リモート化促進については、新たな日常を見据え、今から整備すべきと考え、計上させていただきました。更に、現時点で計上できませんでしたが、賛助

会員の加入状況が、例年に比べ厳しいことが見込まれるなど、更なる減収も想定されますので、今後予定されています事業内容の見直しや、コスト意識を高め、赤字解消に向けた努力をして参ります。

以上で令和2年度補正予算の説明を終わります。御審議お願いいたします。

(麻生議長が議案1についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

«上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案1を議場へ諮ったところ全会一致で承認された»

### 【議案2 ロゴマークについて】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

大分県スポーツ協会ロゴマークについて説明いたします。レジュメ7ページをお開きください。はじめに、これまでの経緯について説明いたします。

令和元年度第2回理事会において、本会の名称変更に合わせて、ロゴマークを定めることを決定し、これまでも使用していました、「豊後梅マーク」を基調とするデザインが承認されました。第2回理事会終了後、理事や加盟団体関係者の方から、「スポーツ協会」の名称にふさわしい新しいデザインが良いのではないかという意見があり、令和元年度第4回理事会で再提案し、デザインの見直し並びに選定委員会設置について承認されました。その後、デザイン作成を別府市の株式会社グリーンサークルに依頼しました。

続いて、選定委員会について説明いたします。令和元年度第4回理事会で承認いただきました、選定委員会会則によって、麻生会長より委嘱された8名の委員の方に就任いただき、6月と7月に委員会を開催しました。委員会では、デザイナーによるプレゼンテーションが行われ、4つのデザインが提案されました。

1案は、「豊後梅マークを基調とし、現代風にマイナーチェンジされたデザイン」

2案は、「星を掴もうと体を大きく伸ばしている姿で、スポーツの躍動感を表現し、伸び上がる人が星を掴むデザイン」

3案は、「O I T Aのアルファベット4文字と大分の大の字を組み合わせ、両足をしっかりと大地に下ろし、両手を広げ、ラジオ体操をしているようなデザイン」

4案は、「スポーツを通して得ることのできる輝きや疾走感を、星に斜体を掛けたスポーティなデザイン」の合計4案でした。

次に、8ページの選定結果をご覧ください。それぞれに、コンセプトとデザインに魅力がありましたが、選定結果は、幅広い世代に親しみやすい、新しいスポーツの価値観、大分らしいデザインがコンセプトである、星を掴むデザインが最終案として決定されました。

選定理由は、星を掴もうと、体を大きく伸ばしている姿は、スポーツに係る、県内すべての人との距離を、より近づけたいという本会の考え方が表現され、更にスポーツの躍動感と親しみやすさを感じる。次に、星は大分県の「大」の字を表し、同時に大分県の代表であることが表現されている。次に、本会の目的である「心身の健全な発展」を、区切りなく大きく広がった空に擬えて、人の色は「空色」、文字の色は、「おんせん県」としての熱量の高

さを「赤色」で表されていること。以上が選定理由となります。

ロゴマークの取り扱いについては、9ページ記載の通り、(1)～(8)の内容となります。今回ロゴマークを正式に定めることにより、本会のブランドイメージが高まることが期待されます。まずは、「あのロゴマークは、スポーツ協会だ」と広く認知していただけるような取組を進めてまいります。具体的な活用といたしまして、ホームページでの掲載、大分県スポーツ協会旗、事務局看板の作成、印刷物での掲載、ロゴマークが印字されたラッピング自動販売機の導入、又、加盟団体をはじめ、多くの皆様方にもロゴマークを使用していただけるよう、広く情報発信に努めてまいります。今後、本会の事業目標を、持続的に達成するためにも、これまで以上に、身近で、親しまれる団体を目指していく必要があります。ブランド力向上が本会の財政基盤の確立及び財務体制の強化へと繋がり、結果として安定的な法人経営が実現するものと考えます。なお、商標登録の必要性については、今後専門家と相談し、検討いたします。以上が、ロゴマークについての説明でございます。御審議よろしくお願いたします。

(麻生議長が議案2についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

≪上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案2を議場へ諮ったところ全会一致で承認された≫

### 【議案3 公益財団法人大分県スポーツ協会表彰に係る特例措置について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

大分県スポーツ協会表彰に係る特例措置について説明いたします。始めにレジュメ12ページの表彰規程をご覧ください。

この表彰は、学校・地域または職域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、本県スポーツの振興に著しい成果をあげた個人及び団体を表彰するものであり、表彰の種類は、第4条にあるように、「スポーツ功労者及び団体」、「スポーツ優良生徒」、「生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体」の3種類でございます。

続きまして、レジュメ11ページをご覧ください。今回の提案内容であります。この度の新型コロナウイルスの影響により、高等学校は、県高等学校総合体育大会の実施内容を変更し開催しましたが、14競技において、優勝決定戦がなく、中学校は県中学校総合体育大会全競技が全て中止になり、優勝回数が減数いたしました。このことから、対象生徒を救済する処置として、スポーツ優良生徒の特例措置を、御提案いたします。該当となる基準は、第4条(2)スポーツ優良生徒⑤県大会で優勝した者(高校4回以上、中学2回以上)で、特例措置として、高校生は、記載の14競技において、県大会の優勝回数を3回以上、中学生は全競技において、1回以上で認める措置です。対象者は、令和2年度に卒業する生徒です。また、来年度以降の卒業生については、その時の状況によりますが、今年度と同様の状況でありましたら、会長承認とさせていただきたいと思っておりますので、このことも併せて御審議をお願いいたします。

(麻生議長が、議案3についての質問を議長に諮った。)

質問 (常務理事) 井上 倫明 氏

生徒たちを救済する措置として非常にありがたい提案であります。是非とも前向きにご審議いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

質問 (常務理事) 阿部 方 氏

高体連と同様、県の総合体育大会が今年度はできませんでしたので、新人大会の県の結果を認めていただき表彰していただければと思っております。是非よろしくお願いいたします。

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案3を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

4. 報告・説明事項について

- (1) 今後の強化計画について
- (2) 令和2年度事業報告及び事業日程の変更について
  - \* 新型コロナウイルス感染症の影響による事業日程・内容の変更等
- (3) 各種大会成績
- (4) その他
  - \* ガバナンス研修会(11月7日)の案内

【報告・説明事項(1) 今後の強化計画について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

今後の強化計画について説明させていただきます。レジュメの14ページをお開きください。昨年の茨城国体以後、第75回鹿児島国体の目標を、千葉国体以降、9年間達成できていない「天皇杯得点1000点」を目指し強化を進めていたところでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、国と県の要請を踏まえ、本会から、競技団体などに対して、児童・生徒の活動を3月2日から自粛していただくよう要請しました。その後、活動再開にあわせ、7月8日から、競技力向上対策班と合同で、競技団体とのヒアリングを実施し、自粛期間の影響や現在の選手の状況について、また今後の競技活動にあたっての感染予防対策や強化の方向性について協議しました。まずは、強化事業を進めるに当たり、中央競技団体のガイドラインに沿った感染症予防対策を徹底し、そのために必要な消毒液や体温計を購入するための予算措置を講じました。

次に強化を再開するに当たり、強化期間を3段階に分け推進することといたしました。第1段階の7月から8月は、リカバリー期と捉え、学校休業期間や活動自粛により、体力が低下していることから、徐々に体をならしていくことに併せ、その期間を利用し医科学を活用した知的プログラムを実施することで、選手の意識向上を図る。第2段階の9月から10月

は、拠点および選抜強化期と捉え、秋に予定される各種大会に向けた、拠点チームと選抜チームの強化を図る。第3段階の11月には、再度、競技団体とのヒアリングを実施し、次年度の三重国体に向けた明確な目標設定のもと、本格的な県選抜チームの強化を図る。としています。

今後も新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、国や県などの方針、中央競技団体のガイドラインに沿って強化活動を進め、競技力向上対策班と連係を図り、段階的な強化計画を着実に進めて参りたいと思います。以上でございます。

(麻生議長が報告・説明事項(1)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

#### 【報告・説明事項(2) 令和2年度事業報告及び事業日程等の変更について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

レジュメの15ページをお開きください。5月13日に文書提案させていただきました第1回理事会以降の主な事業につきまして、報告させていただきます。また、予定されていた行事が中止となったものについては、No.を黄色で示しています。多くの行事が中止となり、全国・九州会議はWEB会議や書面決議での開催となっています。

始めに、No.4、5月28日に九州地区体育・スポーツ協会臨時幹事会が、WEBにより開催され、九州ブロック大会の開催可否について協議いたしました。No.5、5月29日に書面決議によって定時評議員会を開催し、令和元年度事業報告、決算報告を承認いただきました。No.27、8月1日から優秀指定選手メディカルチェック、採血による貧血・栄養検査を開始いたしました。こちらの事業は、平成30年度まで大分県成人病検診センターの御協力により、検診センターを拠点にメディカルチェックを行ってまいりましたが、昨年度から、これまでと違う新たなシステム・検査項目により、メディカルチェックを実施していません。今年度は、19競技団体、300名を対象に実施する予定です。採血は本会で指定させていただきました、県内11市町の19医療機関で実施しています。採血後は、委託した臨床検査会社が検体を回収し、検査結果を各チームに送付する流れとなります。選手自身で検査結果を自己評価し、改善が必要とされる選手につきましては、医療機関への受診を勧めるシステムとなっています。また、医科学委員会のメディカルサポート部会でも、チームや個人に対して対策・改善に向けた、結果説明会・相談会を行う予定としています。今後もチーム関係者のニーズに的確に応え、効率的で、持続可能な事業となることを目指して、更なる体制整備を推進していきたいと考えています。

続きまして、No.29、8月6日に第1回スポーツ医科学委員会を開催し、令和2年度事業計画の変更などを協議いたしました。なお、レジュメ17ページ18ページには、今年度の事業計画日程変更を掲載しています。新型コロナウイルス関連で、国民体育大会や九州ブロック大会を始めとする、多くの行事が中止・延期になり、日程が変更されています。既に終了した行事は、ねずみ色で示しています。詳細の説明は省略させていただきますので、後刻御確認ください。以上でございます。

(麻生議長が報告・説明事項(2)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

**【報告・説明事項(3) 各種大会成績について】**

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

それでは、「各種大会成績」について報告いたします。レジュメの19ページをお開きください。こちらにも、新型コロナウイルスの影響により、例年行われている大会の大半が中止となっているため、3大会のみの報告となります。陸上競技、セイコーゴールデングラプリ陸上2020東京において、福岡大学の兒玉芽生選手が女子100mで優勝いたしました。

ライフル射撃競技、令和2年度九州高校ライフル射撃選手権大会男子ビームピストルにおいて、由布高校の森田竜成選手が優勝いたしました。また、2020年度全国高校スポーツ射撃競技大会で、同じく、森田竜成選手が10mビームピストル男女混合において優勝、10mエアピストル男女混合で第3位、三ヶ尻心選手が第4位、野畑美咲選手が10mエアライフル男女混合で第6位に入賞いたしました。両大会ともリモート大会として開催されたものです。以上でございます。

(麻生議長が報告・説明事項(3)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

**【報告・説明事項(4) その他\*ガバナンス研修会の案内について】**

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

令和2年度ガバナンス研修会について説明いたします。レジュメ20ページをお開きください。本研修会は、本会加盟団体・総合型スポーツクラブ・スポーツ少年団の関係者を対象に、スポーツ団体における適正なガバナンスを確保するため、平成27年度から実施してきました。昨年度スポーツ庁から、スポーツ団体が適切な組織運営を行う上で遵守すべき原則・規範となるガバナンスコードが公表され、日本スポーツ協会の加盟団体である、都道府県体育・スポーツ協会は、ガバナンスコードに基づき、今年度より年1回の自己説明をHP等で公表することになっています。本会も今年度より、ガバナンスコードを適用することから、今年度は「ガバナンスコードについて」研修を行うこととしています。ガバナンスコードの原則5には、「役職員向けのコンプライアンス教育を実施すること」と明記されていることもあり、役員の皆様方にも、ご案内をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。以上でございます。

(麻生議長が報告・説明事項(4)についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

**【その他 賛助会員募集について】**

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

最後に賛助会員制度についてのお願いでございます。賛助会員制度につきましては、本年も、皆様方よりご協力をいただき、誠にありがとうございます。この場をお借りまして、厚くお礼申し上げます。先ほども説明させていただきましたが、本会の財政状況は、これまで以上に厳しい状況となっております。皆様方には、既に趣意書を郵送させていただいておりますが、本日は小封筒入りの趣意書を配付させていただいております。周囲の方々と、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、事務局から説明に参りますので、是非、お知らせくださいますようお願い申し上げます。以上でございます。

(麻生議長が賛助会員の募集についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

#### 5. 閉会のことば

渡邊総務部長が閉会のことばを述べた。

令和2年 月 日

会 長 麻 生 益 直

副会長 工 藤 利 明

副会長 相 馬 尊 重

副会長 野見山 裕 治

監 事 倉 掛 賢 裕

監 事 志 賀 一 哉

監 事 矢 部 正 秋